

菊地 健三教授 履歴・業績

菊地 健三 教授 履歴・業績

履 歴

昭和21年 9月26日生まれ

[学歴]

昭和37年 3月 私立城北学園高等学校入学

昭和40年 4月 同校卒業

昭和46年 3月 専修大学文学部人文学科入学

昭和50年 3月 同校卒業

昭和50年 4月 同校大学院文学部哲学科修士課程入学

昭和52年 3月 同課程修了

昭和52年 4月 同校大学院文学部哲学科博士課程入学

昭和45年 3月 同課程修了

[教歴および研究員]

昭和56年 4月 専修大学経済学部専任講師

昭和57年 4月～7月 東京芸術大学美術学部特別講義

昭和59年 4月 専修大学経済学部助教授

昭和60年 4月～63年 3月 電気通信大学兼任講師

平成 2年 4月 専修大学経済学部教授

平成 4年 4月 長期在外研究員（ドイツ・ミュンヘン大学）

平成13年 4月～18年 3月 清泉女子大学兼任講師

平成18年 4月 国内留学研究員（東京芸術大学美術学部）

平成22年 4月 専修大学文学部（哲学科）に移籍

[学内役職歴]

平成13年4月～15年3月 教員資格審査委員会委員
平成15年4月～17年3月 教養教務委員会委員
平成22年4月～26年4月 入学試験委員会委員（同5月～27年5月 入学試験問題提出者）
平成24年4月 体育部委員
平成27年4月 自己点検・評価運営委員会委員
平成27年7月～29年3月 国際交流センター委員会委員
その他、学生部委員、カリキュラム委員等歴任

業 績

[研究業績（「菊地健三」名義）]

≪著書・翻訳≫

『無根拠の時代』共著 竹内整一編，大明堂，平成8年3月
『ジル・ドゥルーズの試み』共著（市倉宏祐，伊吹克己）北樹出版，平成6年4月
翻訳 U・P・ヤウヒ著『性差についてのカントの見解』専修大学出版局，平成16年10月
『カントと二つの視点』専修大学出版局，平成17年7月
『西洋の美術』共著（島津京，濱西雅子）晶文社，平成26年4月
『カントと動力学の問題』晶文社，平成27年5月

≪論文≫

「カントにおける構想力への一考察（Ⅰ）」『専修大学大学院紀要3号』昭和53年5月
「カントにおける構想力への一考察（Ⅱ）」『専修大学大学院紀要4号』昭和54年5月
「カントにおける〈力〉の概念を巡って」『専修人文論集30号』昭和58年3月

「差異，あるいは欲望する機械—G・ドゥルーズの思想と構造主義批判」『専修大学現代文化研究所報告62号』昭和60年3月

「形而上学的認識と内的可能性」『専修大学人文学研究所月報115号』昭和61年12月

「美的判断力と政治哲学—H・アーレントのカント解釈」『専修大学人文学研究所年報20号』平成2年3月

「内包量をめぐるG・ドゥルーズのカント批判」『専修人文論集47号』平成3年2月

「Logik der Empfindung und Theorie des Denkens von Deleuze」『専修人文論集49号』平成4年2月

「ジル・ドゥルーズにおける感覚の論理と思考の理論」『哲学46号』平成7年4月

「性差についてのカントに見解—コフマンとヤウヒ」『生田哲学3号』平成9年5月

「ハイデガーの芸術への問い」『専修人文論集66号』平成12年3月

翻訳「性差についてのカントの見解 I～IV」『専修大学人文学研究所月報202号～208号』連載，平成15年1月

「カントの〈哲学的脳理論〉をめぐって」『専修大学人文学研究所月報236号』平成20年7月

「カントの〈自然の形而上学〉をめぐって」『専修大学人文学研究所月報242号』平成21年12月

「カントと動力学の問題」『専修大学人文学研究所月報250号』平成23年3月

【研究業績（「秋田由利」名義）】

《事典・共著》

『現代美術事典』中原祐介監修，篠田達美，たにあらた他 美術出版社，昭和59年8月

『近代の人間の現況』共著 大庭健，石塚良次，山崎努 勁草書房，昭和61年3月

『現代美術—ウォーホル以降』共著 柏木博，篠原資明他，美術手帳編集部編

美術出版社，平成2年1月

『現代芸術事典』共著 北沢憲昭，水沢勉他，美術出版社編集部編 美術出版社，平成5年1月

『楽しい美術本ガイド』共著 谷川渥，吉村作治他，美術手帳編集部編 美術出版社，平成6年9月

『現代日本アーティスト名鑑』共著 建畠哲，村田真他，美術出版社編集部編 美術出版社，平成7年4月

〈論文〉

「美術における終焉と自由—構造主義以降の一地平から」『美術手帳443』美術出版社，昭和54年1月（美術手帳創刊30周年記念 [芸術評論] 受賞作：審査委員 針生一郎，多木浩二，藤枝晃雄）

「村井正誠論」『美術手帳七月号』美術出版社，昭和54年7月

「宮川淳論」『東京大学新聞1262号・1264号』昭和55年9月・10月

「ジョゼフ・コススと河原温」『文学空間4』創樹社，昭和55年12月

「美術における脱—体系化の動き」『美術手帳 増刊 美術年鑑81』美術出版社，昭和56年1月

「限りなきベシムズムへ」『みずゑ』美術出版社，昭和56年12月

「精神的独身者の姿」『美術手帳六月号』美術出版社，昭和59年6月

「三木富雄論」『美術手帳二月号』美術出版社，昭和60年2月

「ポスト・概念芸術の現状から概念芸術を見る」『思考する美術展』山梨県立美術館）昭和60年8月

「郭仁植論」『郭仁植の芸術世界』韓国国立現代美術館，昭和60年8月

「アンディー・ウォーホル論」『季刊 版画藝術58』阿部出版，昭和62年

〈書評・翻訳等〉

書評 「針生一郎『戦後美術盛衰史』」『美術手帳』美術出版社，昭和54年5月

書評 「キリコ『キリコ回想録』」『日本読書新聞2051号』，昭和55年4月

抄訳 「大きな機械と小さな機械—F・ガタリ氏に聞く」『日本読書新聞2072・

2073・2074号』昭和55年4月

共同翻訳 粉川哲夫「分子的無意識と革命—F・ガタリ氏に聞く（インタビュー）」『日本読書新聞2081号』, 昭和55年4月

書評「宮川敦『宮川敦著作集Ⅱ』」『日本読書新聞2086号』昭和55年4月

翻訳 イヴ・ミッショー「アルチュセールのアパルトマン」『日本読書新聞2103号』昭和56年

翻訳 F・ガタリ「自由の新たなる空間の奪還に向けて（上）（下）」『日本読書新聞』昭和56年9月・10月

書評「近藤耕人『見える像と見えない像』」『日本読書新聞2097号』昭和58年3月

書評「増成隆士『思考の死角を見る』」『日本読書新聞2217号』昭和58年7月

書評「谷川渥編『記号の劇場』」『美術手帳』美術出版社, 昭和63年11月

哲学者紹介「G・ドゥルーズ」『理想 冬号, no645』理想社, 平成2年

書評「東野芳明『マルセル・デュシャン「遺作論」以降』」『週刊読書人』, 平成2年8月

書評「谷川渥『見ることに逸楽』」『週刊読書人』平成8年3月

哲学者紹介「ジル・ドゥルーズの独創性」『読売新聞 夕刊』平成9年3月13日

《その他学外での履歴(個展・シンポジウム・展覧会評・対談・展覧会企画等)》

個展：神田「田村画廊」, 銀座「サトウ画廊」のいずれかにおいて年一回「個展」開催, 昭和47年4月～53年3月

シンポジウム：多木浩二, 宇佐美圭司他「美術と構造」昭和54年

以降シンポジウム多数

展覧会評：『美術手帳』美術出版社, 昭和55年7月～56年6月

展覧会評：『みずゑ』美術出版社, 昭和56年1月～12月

以降展覧会評多数

横浜市教育委員会主催 展覧会企画「壁」展(岡崎乾二郎, 川俣正, 斎藤義重他, 横浜市民ギャラリー) 昭和56年11月19日～12月3日

以降展覧会企画多数

対談 仲川恭司『新美術新聞 no. 417』昭和61年11月 以降対談・座談会多数